

**①「私に向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。私の天の父の御心を行う者だけが入るのである」(21)**

上の主イエスの教えを読むと、「口先だけ“イエス様”と言うのでなく、行いが重要なのだ」と思うかもしれません。しかし、その次の節、「かの日には、大勢の者が私に、『主よ、主よ、私たちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。」(22)を読むと、「行いが大事」でもなさそうです。一体どう考えたらいいのでしょうか？ その答えは、これに続く次の箇所24節以下が関係しています。

**②「そこで、私のこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている」(24)**

岩の上に建てた家は雨が降り、川があふれ、風が吹いても倒れなかった。けれども、砂の家に建てた家は雨が降り、川があふれ、風が吹くと倒れてしまった。ある注解者が、この例え話の要点について、「この二つの家は、実際の建築が良いか悪いかではなくて、場所の選択が賢明であるか愚かであるかということを示す」と述べています。「実際の建築の良し悪し」とは「家を建てる作業を人間がしっかりするかどうか」を指し、「場所の選択」とは「建てる場所をしっかりと『神』の上に選ぶかどうか」を指し、後者の大事さを教えている話です。この話とちょっと似ているのが「狼と三匹の子ブタ」の話ですが、考えてみると、それは「楽すること（わら・木で建てる）を望んで、労を惜しむな（レンガで建てる）」という「人間の業」に関して教えている話です。両者は似ていますが、教えている内容は違うわけです。

**③「イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである」(28-29)**

いくら隣人愛に富んで人生を充実して過ごせた人がいたとしても、主イエス・キリストの重要性の何たるかを知らなければ、なお死が暗闇として残っています。イエス・キリスト、それは私たちに死も恐れないうようにして下さるために来て下さった権威ある方、救い主なのです！